

プレスリリース

2026 年 1 月 14 日  
国境なき医師団（MSF）

**「JOURNEY TO YEMEN ―イエメンコーヒーでつながる世界」**  
**イエメンの文化や人道状況を伝える写真展・トークイベントを沖縄・那覇市内で開催**

世界 70 カ国以上で医療・人道援助活動を行う国境なき医師団（MSF）は、沖縄県各地で開催される「ミチシルベ 2026」の関連イベントとして、2 月 2 日（月）から 14 日（土）まで「JOURNEY TO YEMEN―イエメンコーヒーでつながる世界」（会場・ホテル アンテルーム 那覇）に、企画面などで協力します。



© Yuichi Mori Photography

中東・アラビア半島の先端に位置するイエメン。紅海に面したモカ港は古くからコーヒーの交易で栄え、コーヒー文化発祥の地と言われています。日干し煉瓦の独特な建築や音楽、香辛料を使った食文化とともに、家族や友人がともにコーヒーを楽しむ時間を大切にしてきました。

しかし 2015 年から続く内戦により、国連が「世界最悪の人道危機」と呼んだ危機的な人道状況に陥り、現在国内で家を追われた人は約 480 万人に上ります（※）。貧困や深刻な食料危機で人口の 7 割が援助を必要とし、病院の約半数が機能不全に陥っています。

イエメンの人びとの日常をとらえたドキュメンタリー写真家森佑一氏の写真と、豊かなモカコーヒーの香りを楽しみながら、イエメンを旅するひととき。一杯のコーヒーを通して、世界とつながってみませんか。

※国連難民高等弁務官事務所（2025 年）

**開催概要**

**「JOURNEY TO YEMEN ―イエメンコーヒーでつながる世界」**

- 開催日時：2026 年 2 月 2 日（月）～2 月 14 日（土） 9:00～21:00（最終日 17:00 まで）
- 開催場所：ホテル アンテルーム 那覇（沖縄県那覇市前島 3 丁目 27-11）
- 入場料：無料

- 主催：ミチシルベ 2026 実行委員会
- 企画・協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本
- 特別協力：ホテル アンテルーム 那覇
- お問い合わせ：国境なき医師団日本 広報部 collabo@tokyo.msf.org
- ウェブサイト <https://www.msf.or.jp/event/detail/20260202.html>

## イベント内容

### 「JOURNEY TO YEMEN —イエメンコーヒーでつながる世界」

#### ■森佑一写真展とイエメンの暮らし

イエメンの取材をライフワークとし、美しい風景やいきいきとした人びとをとらえてきたドキュメンタリー写真家・森佑一氏の作品を展示します。会場では、イエメンで使用されている器や装飾品なども展示。イエメンコーヒーの味を守り、日本に輸入する「モカ・オリジンズ」によるコーヒーの試飲・販売も行われます。コーヒーの香りに包まれながら、イエメンの伝統、文化、空気をを感じる旅をお楽しみください。（展示点数：A0/A1/A3 計 18 点、L 版計約 150 点）



© Yuichi Mori Photography

#### ■MSF のイエメンでの活動のパネル展示

2024 年 4 月時点でイエメンの医療施設の約 46%が、一部機能停止または完全停止状態となっています。母子保健サービスを提供しているのはわずか 20%。妊産婦死亡率は世界最悪の水準となっています。MSF は、紛争の負傷者の外科治療や、心のケア、栄養失調児の治療、母子保健などの医療援助を提供しています。

近年特に子どもたちを中心に栄養失調が悪化。さらに医療ひっ迫が深刻化する中、多くの人びと、特に子どもたちが定期予防接種を受けられず、コレラ、急性水様性下痢、麻疹、ジフテリアが拡大し、命の危険にさらされています。

2024 年 MSF は、12 州にまたがる 17 の病院で計 2334 名のスタッフが活動しました。

会場では MSF のイエメンにおける活動をパネルで展示します。

#### ■映像コーナー

会場内では、森佑一氏が撮影したイエメンを巡るロードムービーの他、詩人・谷川俊太郎氏が国境なき医師団に書き下ろした詩作品のインсталレーション動画等を放映します。

## ■トークイベント

会期中の2月11日（水・祝）には同会場にて、展示の背景や、イエメンと沖縄、命と文化のつながりを深めるトークイベントを開催します。医療、写真、コーヒー。それぞれの現場から見たイエメンの「今」と、沖縄との共通点を語り合います。

**2月11日（水・祝）15:30～17:00**

**Part1「イエメンで見た『戦後の沖縄』——産婦人科医がたどる祖父の記憶と命の現場」**

登壇者：写真家 森佑一 × 国境なき医師団 産婦人科医 濱川伯楽

**Part2「一杯の調和——イエメンと沖縄、命をつなぐ焙煎の物語」**

登壇者：モカ・オリジンズ 代表 アルモガヘッド・タレック × YAMADA COFFEE OKINAWA 代表 山田浩之

定員 30 人 先着順

申込受付：<https://michishirube-2026-programs.peatix.com/>

## ■登壇者プロフィール

### 森佑一（ドキュメンタリー写真家）

1985年香川県生まれ。2012年より写真家として活動を始め、震災被災地、市民運動、広島、長崎、沖縄等の撮影を行う。2015年から2017年の2年間、JICA海外協力隊員として中東ヨルダンにて環境教育の活動に従事。現在は海外に活動の場を広げ、戦時下にある国や地域の実情を取材発信している。これまでに取材で訪れた主な場所は、ギリシャ、フィリピン、バングラデシュ、ヨルダン、パレスチナ、イスラエル、ジブチ、イエメン、ウクライナ、シリア等。ライフワークはイエメン取材。



© Yuichi Mori Photography

### 濱川伯楽（国境なき医師団 産婦人科医）

沖縄県出身。産婦人科医。沖縄の病院で10年余り勤務した後、国境なき医師団に参加。2020年にパキスタンへ派遣された後、2021、2022年の2回にわたってイエメン・アブスの病院で活動した。2025年3～4月には南スーダン、9月から2026年1月までアフガニスタンへ派遣。現在は沖縄の病院に勤務する。



© Hanae Uchida

### アルモガヘッド・タレック（モカ・オリジンズ 代表）

イエメン出身。留学をきっかけに来日。2018年にイエメンでコーヒーを栽培する兄コサイとタグを組みモカ・オリジンズを設立。政情不安により生産が困難になったイエメンコーヒーの輸入・販売を手掛けている。イエメンコーヒーの伝統を守り現地の小規模農家を支援するほか、戦争のイメージばかりでなく大切に守られてきた豊かな文化を多くの人に知ってほしいと、イエメンやアラビア文化の魅力をSNSやイベントを通して発信している。



© Yuichi Mori Photography

### 山田浩之（YAMADA COFFEE OKINAWA 代表）

父の影響でコーヒーの世界に足を踏み入れ、東京での修行を経て、2016 年に沖縄に戻り、YAMADA COFFEE OKINAWA を立ち上げる。現在県内で 2 店舗のコーヒーショップを運営。生産者と焙煎業者が近い距離にいる沖縄ならではの環境を活かし、地域とのつながりを大切にしながら品質向上への取り組む他、お客様のライフスタイルに寄り添い、人びとの生活を豊かにすることを目指している。



#### 本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：高橋哲子

携帯：090-5401-5176

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <https://www.msf.or.jp>

メディア向け X（旧ツイッター）アカウント：@MSFJ\_Press